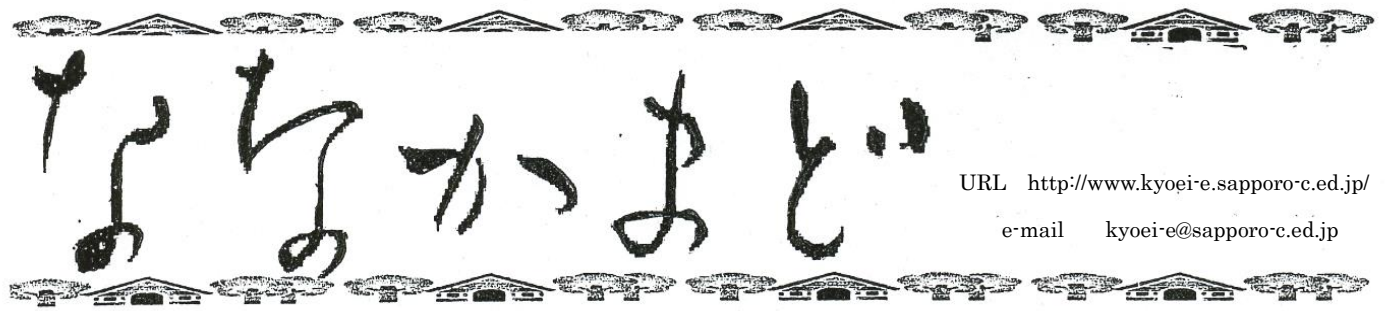




URL <http://www.kyoei-e.sapporo-c.ed.jp/>

e-mail kyoei-e@sapporo-c.ed.jp

伝え合って、深めよう

研修部長 石田 晃大

高校生の頃、よく聴いていた DREAMS COME TRUE (ドリカム) の『サンキュ.』という曲。その中で、強く心を惹かれる歌詞があります。♪ちょっとカッコ悪いけど 髪切るならつきあうよ・・・♪これは、曲に出てくる主人公の女の子へ向けられた言葉です。主人公の女の子は、彼と別れたばかり。傷心の彼女に対して、まるで告白とも受け取れるこの一言・・・、きっと心の優しい男の子に違いない。私は密かにそんな想像を膨らませながら、この曲を聴いていたものです。

しかし、その思いが覆されました。『サンキュ.』って女友達の歌だよ。」耳を疑う一言でした。そして、作詞の吉田美和さんのインタビューで、やはり、あれは「女友達」のことを歌ったものだったことが判明。その後、改めて「女友達」の歌と思って聴いてみると、また違った情景が浮かんできます。「女友達」の友情っていいなあ、と思えたのは、私が高校生の頃より成長したからかも知れません。

さて、本校では、今年度の授業研究を「文学的文章」で行っています。歌の歌詞がそうであるように、物語を始めとした文学作品には、読み手に様々な解釈を生むものがあります。むしろ、それが文学の価値とも言えるかも知れません。一人だけで読むよりも、同じ作品を読んだ人と語り合うことで、色々な見方や考え方を知り、理解が深まるものだと考えられます。

例えば、4年生では「ごんぎつね」という作品を読みました。その際に、「ごんってどんなきつねかな。互いに紹介し合おう。」という活動を設定しました。ごんの行動や心情に着目して読みながら、ごんという登場人物についてどのように考えるかをまとめていきました。同じ作品を読んでも、登場人物をどのように評価するかは、一人一人違います。その違いを交流することで、「そういう見方もあるのか。」「そんな考え方もあるんだね。」という発見につながることをねらいました。文章から読み取ったごんの気持ちを熱く語り合う子どもたちの姿から、私たち教職員も学ぶことが多くありました。また、2年生では「お手紙」という作品を読み、音読劇を通して登場人物の心情に迫ることをねらいました。5年生では「たずねびと」という作品を読んで平和のポスターを作成し、一人一人が考えたメッセージを伝え合う活動を行いました。

このように本校では、自分の考えをもつだけでなく、互いの考えを伝え合う活動を設定することにより、友達の見方や考え方からも学びながら、一人一人の考えが深まるような授業を目指しています。子どもたちの思考力を高めるために、今後も授業研究を進めていきます。